

W7章 実体の分類Ⅱ（肯否）

肯否への関わり方で分類

この章では、動詞の程度・様態等を表す実体を、
肯定・否定との関わり方で分類します。

原則を示すため、微妙な例をできるだけ避けました。

W7.1 肯定・否定1・否定2 (98)

この3者の違いを構造で示します。

W7.2 格を表示する・しない (99)

格の表示・非表示で意味が異なることがあります。

W7.3 肯定・否定との関係…5種類の客体 (100)

肯定・否定との関わり方で、次の5種類に分類します。

W7.4 A型客体 (102) かすか 肯定だけに関わります。

W7.5 B型客体 (103) はっきり 肯定と否定1に関わります。

W7.6 C型客体 (104) 完全 肯定と否定1, 2に関わります。

W7.7 D型客体 (105) 絶対 肯定と否定2に関わります。

W7.8 E型客体 (106) とうてい 否定2だけに関わります。

W7.1 肯定・否定1・否定2

- ・「肯定」「否定1」「否定2」の3者の違いを示します。
- ・下記の「程度」には「様態」も含まれます。
- ・構造図示では「は」を省略します。 第34章

表W7-1 肯定と否定

<p>肯定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・動属性と主体の関係が成立することを表します。 (1) 彼の1は、<u>歌を歌う</u>。 ・客体が動詞の程度を表す場合は、その程度において成立します。 (2) 彼の1は、<u>はっきり(と)言う</u>。(「と」の発音は任意です。) (3) 彼の1は、<u>あまりに働く(ので、……)</u>。(「に」はふつう発音します。) <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;"> <p>(1)</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>(2)</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>(3)</p> </div> </div>
<p>否定1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・動属性と主体の関係が成立しないことを表します。 (4) 彼の1は、<u>歌を歌わない</u>。 ・客体が動詞の程度を表す場合は、その程度に達しないことを表します。 (5) 彼の1は、<u>はっきり(と)言わない</u>。(「と」の発音は任意です。) (6) 彼の1は、<u>あまりに働かない</u>。(「に」は発音しません。) <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;"> <p>(4)</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>(5)</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>(6)</p> </div> </div>
<p>否定2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・動属性と主体の関係が成立しません。客体はその程度を表します。 ×(7) 彼の1は、<u>歌を歌わない</u>。(「歌」は程度を表しません。(4)参照。) (8) 彼の1は、<u>絶対(に)言わない</u>。(「に」の発音は任意です。) (9) 彼の1は、<u>あまりに働かない</u>。(「に」は必ず発音します。) <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;"> <p>×(7)</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>(8)</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>(9)</p> </div> </div>

W7.2 格を表示する・しない

・実体が動詞の程度・様態を表す場合、「に(ni 格)」や「と(to 格)」は表示・非表示の両方があります。

以下に示すのは典型例で、実際の使用では異なることもあります。

表W7-2 格表示の有無

格表示 1	格を必ず表示する	格表示する	かすか-ni	おもむろ-ni	ぼうつ-to
		格表示しない	かすか-\emptyset	おもむろ-\emptyset	ぼうつ-\emptyset
格表示 2	格を表示してもなくても、意味は同じ	格表示する	十分-ni	すぐ-ni	はっきり-to
		格表示しない	十分- \emptyset ni	すぐ- \emptyset ni	はっきり- \emptyset to
格表示 3	格は表示しない	格表示する	再び-ni	さきどき-ni	すっかり-to
		格表示しない	再び- \emptyset ni	ときどき- \emptyset ni	すっかり- \emptyset to
格表示 4	格を表示するとき、表示しないときで意味が異なる	格表示する	あまり-ni 異常な程度	いま-ni そのうち・将来	たしか-ni 確信
		格表示しない	あまり- \emptyset ni 否定 ¹ たいして	いま- \emptyset ni 直近未来・過去	たしか- \emptyset ni たぶん

W7.3 肯定・否定との関係…5種類の客体

第34章

[1] A型客体～E型客体

・ここでの実体は動詞の程度・様態を表す客体として ni 格, to 格, de 格, Ø2 格に存在します。

動詞の程度・様態を表す客体を, 肯定・否定との関係で分類すると, A型客体～E型客体の5種類になります。表中○表示の部分は右ページに構造を示します。

表W7-3 客体を肯定・否定との関わりで5つに分類 (現在の使用法)

肯定・否定		客体の型					
		A型客体	B型客体	C型客体	D型客体	E型客体	
肯否1	客体が動 属性の客体	肯定	○	○	○	○	×
肯否2		否定1	×	○	○	×	×
肯否3	客体が否定 属性の客体	否定2	×	×	○	○	○

否定2種類 p.98参照

否定1は, [客体が動属性に関わって肯定しているの]を否定します。

否定2は, 客体が否定属性に直接に関わって否定します。

8種類の型があるはず

計算では, 8種類の型があるはずです。

$$2 \times 2 \times 2 = 8$$

$$(○, ×) \times (○, ×) \times (○, ×) = 8$$

ところが, 上の表にあるのは, A型客体～E型客体の5種類だけです。ここにない型は, 次のF, G, H型です。これらがなくことで, 次のことが分かります。

表W7-4 F型客体, G型客体, H型客体はない それでわかること

F型客体	×× ×	肯定・否定のいずれにも使用しない客体は存在しない。
G型客体	×○ ×	動属性の客体は, 肯定使用がなければ, 否定1の使用ができない。(仮説です。今後見つかるかもしれません。)
H型客体	×○ ○	

問W7-1 「かすかに見えない」と言うのでしょうか。上の表のどこに当たりますか。

問W7-2 「はっきり分かる」「絶対分かる」を否定にしたときの違いは何ですか。

問W7-3 「とうてい」という語は, 肯否3で使うのですか。

[2] A型客体～E型客体の構造

左ページの○表示部分の構造を示します。

表W7-5 A型客体～E型客体の構造 (現在の使用法)

	A型客体	B型客体	C型客体	D型客体	E型客体
	かすか	はつきり	完全	絶対	とうてい
肯否1 / 肯定	<p>かすか-ni 見える</p>	<p>はつきり-(to) 分かる</p>	<p>完全-ni 分かる</p>	<p>絶対-(ni) 飲む</p>	×
	肯否2 / 否定1	×	<p>はつきり-(to) 分らない</p>	<p>完全-ni 分らない</p>	×
肯否3 / 否定2	×	×	<p>完全-ni 分らない</p>	<p>絶対-(ni) 飲まない</p>	<p>とうてい-02 分らない</p>

次ページから、A型客体～E型客体について説明します。

問W7-4 「完全に分かる」を否定すると、2つの意味になりますか。

W7.4: A型客体

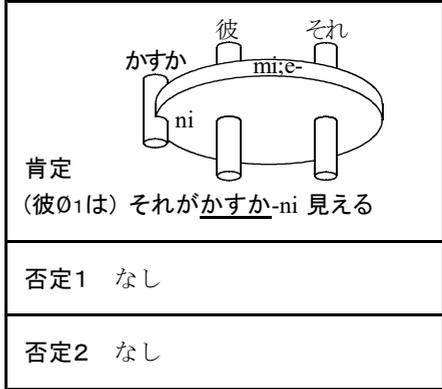
A型客体の例は「かすか」です。

34.4

- ・A型客体「かすか」は肯定でしか使いません。
- ・「かすか」の意味は「わずかに感じとれるようす」です。
- ・動属性の ni 格に立ちます。「かすか ni」として使い、ni は必ず発音します。

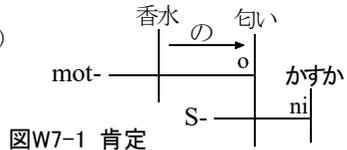
表W7-6 A型客体の肯・否使用

肯定・否定		型	A型客体 かすか
1	動属性 の客体	肯定	○
2		否定1	×
3	否定属性 の客体	否定2	×



肯定の例文

- (1) (彼の1は) それがかすか-ni 見える。
(「見える」の構造はページ最下の図を参照。)
- (2) (私には) かすか-ni 花火の音が聞こえる。
- (3) かすか-ni 香水の匂いがする。



図W7-1 肯定

かすか-ni 香水の匂いがする

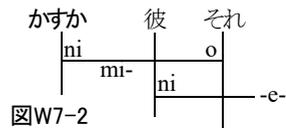
否定では使いません。

- (4) *かすか-ni 見えない。……意味が分かりません。
相対描写詞「も」をつければ、否定もできます。(5) かすか-ni も見えない。
異なる要素が加わりますので、「は」「も」等の相対描写詞は考察の対象としません。

A型客体の例 (「一だ、一です」〈de格〉での使用法を除きます。)

- [ni 格に立つ] おもむろ(に) ささやか(に) ただち(に) ほのか(に)
- [to 格に立つ] 一段(と) うすうす(と) うっすら(と) ほんのり(と)
- [O2 格に立つ] あらかた(O2) いささか(O2) すっかり(O2) せつかく(O2)

「見える mi;c-ru」の、態を明示した構造図は右図のようになります。見る主体(彼)が ni 格で表示されています。上の立体図は mi-と-cが一体化して新動詞 mi;c-(二重主語)となったものです。(「聞こえる kik;o;c-ru」はVのp.90参照)



図W7-2

彼-ni かすか-ni それ-ga mi;c-

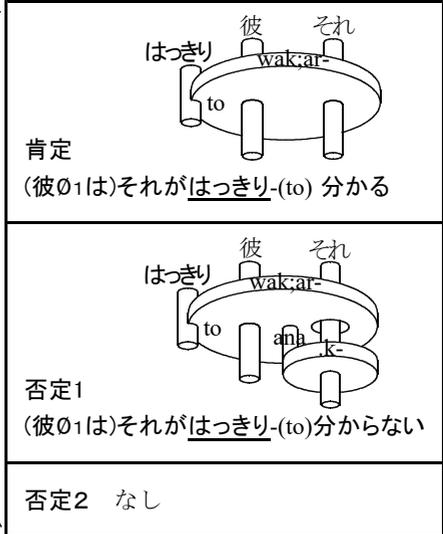
W7.5: B型客体

B型客体の例は「はっきり」です。（一般の名詞も） 34.4

- ・B型客体「はっきり」は肯定と否定1で使います。
- ・否定1は、[客体が動属性に関わって肯定している]のを否定するものです。
- ・「はっきり」の意味は「確かで、明らかなようす」です。
- ・「はっきり」は動属性の to 格に立ちますが、to は発音しないこともあります。

表W7-7 B型客体の肯・否使用

肯定・否定		型	B型客体 はっきり
1	動属性 の客体	肯定	○
2		否定1	○
3	否定属性 の客体	否定2	×

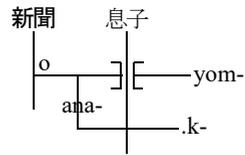


肯定の例文

- (1) (彼の₁は)それがはっきり-(to) 分かる。（「分かる」の構造はVのp.61を参照。）
- (2) 事情がはっきり-(to) する。
(参考1) 息子が新聞-(o) 読む。（一般の名詞もB型）

否定1の例文

- (3) (彼の₁は)それがはっきり-(to) 分からない。
- (4) 事情がはっきり-(to) しない。
(参考2) 息子が新聞-(o) 読まない。



図W7-3 否定1

(参考3) 友人が学校-(e/ni) 行かない。 (参考) 息子が新聞-(o)読まない

B型客体の例（「-だ、-です」く de 格）での使用法を除きます。）

[ni 格に立つ] あからさま(に) おまけ(に) 十分(に) すぐ(に)

[ni 格] de 格に立つ] あと(に, で) 必死(に, で)

[to 格に立つ] うっとり(と) 長々(と) ぼうっ(と) ゆらゆら(と)

(参考) [いろいろな格に立つ] 新聞, 学校, 私……等, 一般的な客体です。

W7.6: C型客体

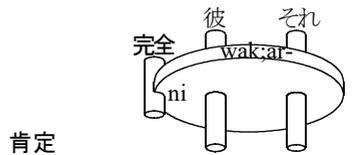
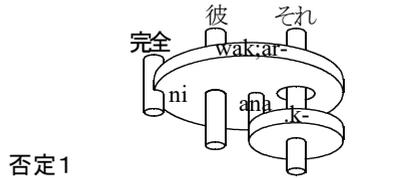
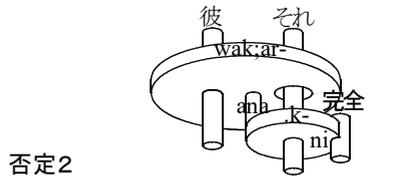
C型客体の例は「完全」です。

34.3

- ・C型客体「完全」は肯定と、否定の1, 2で使います。
- ・否定1は, [客体が動属性に関わって肯定している]のを否定するものです。
- ・否定2は, 客体が否定属性に直接に関わる否定です。
- ・「完全」の意味は「必要条件がすべて満たされていること」です。
- ・「完全」は ni 格に立ちます。ni は必ず発音します。

表W7-8 C型客体の肯・否使用

肯定・否定		型	C型客体
			完全
1	動属性 の客体	肯定	○
2		否定1	○
3	否定属性 の客体	否定2	○

(彼の1は)それが完全-ni 分かる(彼の1は)それが完全-ni 分からない(彼の1は)それが完全-ni 分からない

肯定の例文

(1) (彼の1は)それが完全-ni 分かる。

否定1の例文

(2) (彼の1は)それが完全-ni 分からない。(≒80%は分かる。)(3) (彼の1は)まだそれが完全-ni (は) 分からない。(≒80%は分かる。)

否定2の例文

(4) (彼の1は)それが完全-ni 分からない。(≒まったく分からない。)

C型客体の実体の例 (「-だ, -です」〈de 格〉での使用法を除きます。)

[ni 格に立つ] 完璧(に) あまり(に)……否定1では「に」省略

W7: D型客体

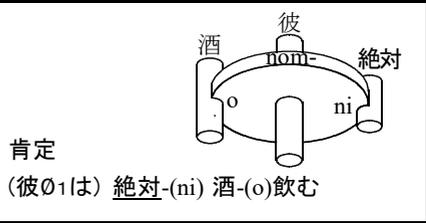
D型客体の例は「絶対」です。

34.2

- ・D型客体「絶対」は肯定と否定2で使います。
- ・否定2は、客体が否定属性に直接に関わる否定です。
- ・「絶対」の意味は「どんな場合でもその事が必ず成立すると断定するようす」です。
- ・「絶対」は動属性の ni 格に立ちます。ni は発音しないこともあります。

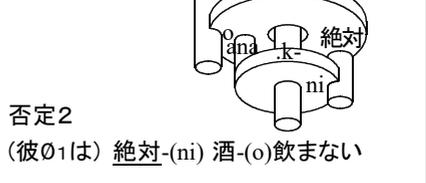
表W7-9 D型客体の肯・否使用

肯定・否定		型	
		D型客体	絶対
1	動属性 の客体	肯定	○
		否定1	×
3	否定属性 の客体	否定2	○



肯定
(彼の1は) 絶対-(ni) 酒-(o)飲む

否定1 なし



否定2
(彼の1は) 絶対-(ni) 酒-(o)飲まない

肯定の例文

- (1) (彼の1は) 絶対-(ni) 酒-o 飲む。
- (2) 絶対-(ni) 彼が勝つ。

否定2の例文

- (3) (彼の1は) 絶対-(ni) 酒-o 飲まない。
- (4) 絶対-(ni) 彼の1は 勝たない。

D型客体の例 (「-だ, -です」〈de 格〉での使用法を除きます。)

- [ni 格に立つ] すで(に) つい(に) 常(に) 本当(に) まれ(に)
 - [O2 格に立つ] ぜんぜん(O2)(俗語的用法を含める) まだ(O2) もちろん(O2)
- 「O2 格」については次ページ下部参照。

- 問W7-5 「幸い」「いささか」「とわ」「すぐ」「めった」の格表示と肯否はどの型ですか。
- 問W7-6 「全員来ない」や「全員に会わない」の場合はどう考えればいいですか。
- 問W7-7 「さほど」はG型客体(p.100)ではないですか。
- 問W7-8 「O1 格」と「O2 格」の違いは何ですか。

W7.8 E型客体

E型客体の例は「とうてい」です。

34.1

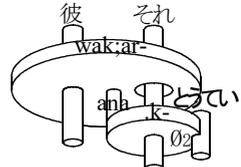
- ・E型客体「とうてい」は否定2でしか使いません。
- ・否定2は、客体が否定属性に直接に関わる否定です。
- ・「とうてい」の意味は「どうやってみてもできないようす」です。
- ・「とうてい」は否定属性の \emptyset_2 格(下記参照)に立ちます。

表W7-10 E型客体の肯・否使用

肯定・否定		型	E型客体 とうてい
1	動属性 の客体	肯定	×
2		否定1	×
3	否定属性 の客体	否定2	○

肯定 なし

否定1 なし

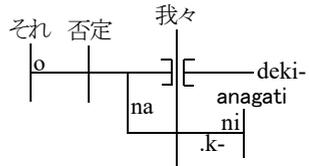


否定2

(彼 \emptyset_1 はそれが) とうてい- \emptyset_2 分らない

否定2の例文

- (1) (彼 \emptyset_1 はそれが) とうてい- \emptyset_2 分らない。
- (2) 彼 \emptyset_1 はロシア語がぜんぜん- \emptyset_2 読めない。
(俗語的用法を除く)
- (3) それ \emptyset_1 はあながち-ni 否定できない。



[ni 格に立つ] あながち(に) 一概(に) 一向(に)

図W7-4 否定2

[\emptyset_2 格に立つ] かいもく(\emptyset_2) ぜんぜん(\emptyset_2)(俗語的用法を除く)

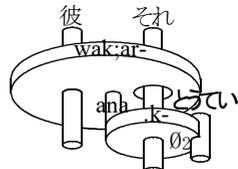
「 \emptyset_2 格」とは

実体は属性と格で結びつきます。

彼 \emptyset_1 (主格), コーヒーを(目的格)飲む。

しかし、「とうてい」などのように、主格・目的格以外でありながら、音声で表現されない格もあります。格があることは確かですが、音声で表現できない格を「 \emptyset_2 格」で表します。

彼 \emptyset_1 , それ~~は~~はとうてい \emptyset_2 分らない。

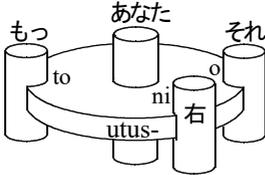


図W7-5 \emptyset_2 格

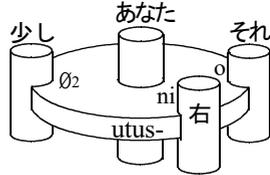
コラムW4

「もっと右」の構造……「もっと」は「右」を修飾？

「もっと右」と言えば、「それをもっと右に移しなさい。」の意味でしょう。その意味を表す構造全体を相手に伝えるために、構造の一部をことばで表現しているわけです。(下左図。動詞は「寄せる」「動かす」等の可能性もあります。)



図コW4-1 もっと右



図コW4-2 少し右

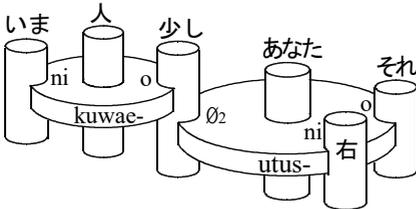
「少し右」と聞けば、「それを少し右に移しなさい。」だと判断します(上右図)。

この捉え方が正しいとすれば、「もっ-to」や「少し-∅2」は、「右」ではなく、動詞の「移す utus-」を修飾していることになります。(参考:「右に少し移しなさい。」)

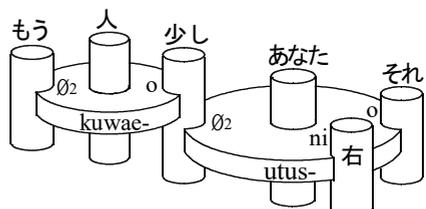
「もう少し右」と言うこともあります。それで気になるのは、「もう」や「もっ」というのは何であるのかということです。……これは古語辞典などから、万葉集の時代の「今、いま」であったものであることが分かります。

いま-∅2 → ま-∅2 → もう-∅2 → も-∅2 → もっ-to
 ima-∅2 → ma-∅2 → mau/moo-∅2 → mo-∅2 → mot-to

「いま少し右」ということであれば、次のような構造になるはずですが(下左図)。



図コW4-3 いま少し右, [いまに加える少し]右



図コW4-4 もう少し右, [もう-∅2 加える少し]右

「いま少し」というのは「いまに少しを加える」「いまに加える少し」という構造を持つでしょう(「いま」は「いまの状態」の意味)。次の例も同様に考えられます。

いま一度, いま一層, いま一息, いま一つ, いま2日

ところで、「もっと右に」とは言いますが、「*もう右に」とは言いません。このことから、どちらも元は「いま」であっても、「もっ-to」の構造は図コW4-1となり、「もう-∅2」の構造は図コW4-4となっていることが分かります。

問W7-9 「もっとたくさん」の「もっと」は「たくさん」を修飾していますか。

コラムW5

2.7

「副詞」とはどういうものか

国語文法には「副詞」とよばれる品詞があります。「副詞」は、構造で見るとき、どういう形として存在するのか、ここに示したいと思います。

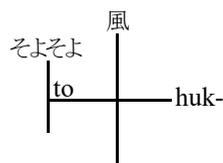
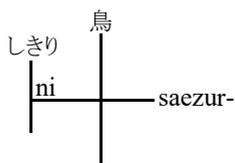
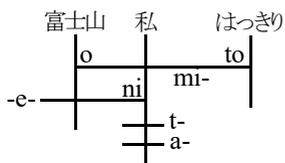
「副詞」とは、国語学によれば、自立語で活用がなく、主語・述語にならない語で、主に用言を修飾するものですが、他の副詞、名詞を修飾するものもあります。

3つに分類されることがあるので、これに従います。

情態副詞

あとの語の意味を、動作・状態において詳しく説明する。

- (1) 富士山がはっきり見えた。(「はっきりと」でもよい。)
- (2) 鳥がしきりにさえずる。(「しきり」とは言わない。)
- (3) 風がそよそよと吹く。(「そよそよ」でもよい。)



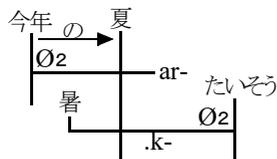
図コW5-1 はっきり(と)見えた 図コW5-2 しきりにさえずる 図コW5-3 そよそよ(と)吹く

「情態副詞」とは、多くは1つの格にしか立たない実体で、普通実体Eです。格詞が省略される場合とされない場合があります。普通実体Eには擬音語・擬態語も含まれますが、これはto格にしか立たないものと、ni格にも立つものがあります。

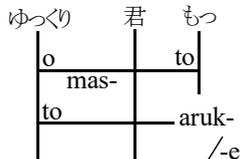
程度副詞

あとの語の意味を、程度において限定する。

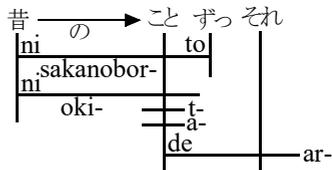
- (4) 今年の夏はたいそう暑い。(「たいそう」は「大層」。)
- (5) もっと ゆっくり歩け。(他の副詞を修飾?)(「ゆっくりと」は可能。)
- (6) ずっと昔のことだ。(名詞を修飾?)



図コW5-4 たいそう暑い



図コW5-5 もっとゆっくり



図コW5-6 ずっと昔のことだ

問W7-10 国文法で、他の副詞や名詞を修飾する場合もあるというのはどの副詞?

「程度副詞」は、(4)のような、普通実体Eのうち程度を表すものです。

また、(5)のような、他の副詞を修飾するように見える「もっと」のようなものもあります……「もっと ゆっくり」。「ゆっくり」は to 格にしか立たない普通実体Eです。「もっと」の「も」は「いま」に由来し(p.107参照)、「と」は to 格詞です。ということは、「もっと to [動詞(連体形)] ゆっくり」のように、間に動詞があるはずですが、この動詞として、他動詞の「増す」を考えました……「もっと to 増す ゆっくり」。その「ゆっくり」が aruk- の to 格にあると考えます。構造図をご覧ください。

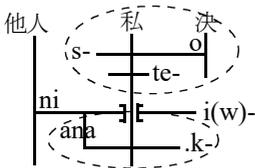
(6)の「ずっと」は名詞を修飾しているように見えます……「ずっと 昔」。しかし、「ずっと」の「ず(一)」は推移を表す擬態語で、これが to 格に立っています。つまり、普通実体Eです。ということは、「ずっと to [動詞(連体形)] 昔」のように、間に動詞があるはずですが、……この動詞として「さかのぼる」が考えられます。「ずっと to さかのぼる 昔」。その「昔」が oki- の ni 格にあるわけです。構造図をご覧ください。

すなわち、他の副詞や名詞を修飾しているように見える「副詞」でも、構造で見ると「普通実体E」であることが分かります。

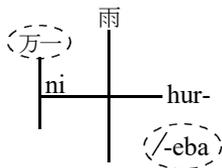
陳述副詞

否定・仮定・推量など、文末の言い方を決める。

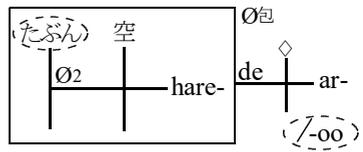
- (7) [否定] 決して他人に言わない。(「決」は外来語、つまり名詞。)
- (8) [仮定] 万一雨が降れば、中止します。(「万一にも」とも言う。)
- (9) [推量] たぶん晴れるだろう。(「多分」は θ_2 格に。)



図W5-7 決して……ない



図W5-8 万一降れば



図W5-9 多分……だろう

「陳述副詞」は文末の言い方を決めるので、副詞と文末が呼応します。(これを「副詞の呼応」といいます。)
「陳述副詞」の例を挙げておきます。

- [肯定] 必ず [否定] 決して、ちっとも [推量] おそらく、たぶん
- [疑問] なぜ、どうして [希望] ぜひ、どうか [比況] まるで、さも
- [仮定] 万一、たとえ(……ても) [禁止] みだりに、断じて
- [反語] どうして、なんで [否定推量] まさか(……まい)、とても(……まい)

「副詞」は、表層文法では立てると便利ですが、構造上では、普通実体E、Fの、A型客体～E型客体の5つの型や、動詞のテ形などであるということになります。

問W7-11 構造の上には「副詞」とよばれる要素はあるのですか。

コラムW6

身体と表現 — 構造と表現

身体で感情表現をする 人間は身体の各部分を駆使して感情を表現します。うれしいときには顔の表情でそれを示しますし、日光浴で気持ちのよいときには両手を広げて息を大きく吸ったりします。

身体存在は感情表現とは無関係 では、その感情の表現に使う身体の各部分そのものは、もともと感情を表すものなののでしょうか。……人が寝ているとき、顔、首、肩、両手、腹、両足等は何らかの感情表現をしているのでしょうか。寝ている人を見ると、ふつうは眠っているということが分かるだけで、何かを表現しているとは感じません。身体の各部分はおもともと感情を表すものではないようです。

身体は固有の物理的法則を持つ 身体には人間の感情とは関係なく、身体のしくみ、物理的法則があるようです。骨格は人間の感情とは関係なく存在します。また、興奮すると血圧が上がる、などのように、感情が直接身体に作用する場合などは、身体固有の物理的法則が表れたものと考えられます。

人間は身体の物理的法則に従う 人間はその物理的法則に従うしかありません。たとえば、目は、開閉はできますが、顔の表面上を自由に移動させることはできません。人差し指は内側には曲がりますが、外側に曲げることはできません。両手は胸の前では手のひらを合わせることはできますが、背中肩甲骨のそばで手の甲どうしを合わせることはできません。たとえ、創作ダンスなどで、その動作である思いを表現したいと切望しても、できないことはできません。

人間は、人間の思いとは関わりのない、身体の物理的法則に従っています。しかし、従っていることも忘れて、動きの可能な範囲内で、身体で気持ちを表現します。

判断や言語も固有の法則を持つ 言語もこれと同じです。人間は自由にいろいろな判断や、言語による表現をしますが、それは、人間の判断と言語の法則のもので、法則に従った自由です。

判断は構造を持つ 人間の判断を支えるのは、構造です。この構造は本文法のいう構造で、実体と属性が格で結びついています。構造を形成する法則は、身体物理的法則と同じように、人間の思いとは関わりなく存在します。

構造は数学のよう 数学には人間の要望とは関係なく、厳とした法則があります。それだからこそ、数学は信頼できるものとして存在します。人間の判断も同じ性質を持っており、人間の意図とは関わりなく形式が成立しています。主格実体を立て、これを属性と結びつける。人間はこの判断形式からのがれられません。

この判断形式と言語表現の関係を構造伝達文法は解明しようとしています。